

地域で作る“生きづらい人々の居場所”

トビラ ファーム

市民公益活動促進補助金
自立促進部門プレゼンテーション

2023年 4月16日

NPO法人南大阪サポートネット

NPO法人南大阪サポートネットの歩み

- 2001年 南大阪サポートネット設立
- 2005年 3月28日、特定非営利活動法人を設立
- 2014年 ひきこもりの若者の自立支援を開始
- 2017年 ひきこもりの若者の居場所
- 『To-Villa (トビラ)』を開設
家族の会、学びの場
お弁当作り、各種ワークショップ
講演会やイベントを実施
当事者会(2021年度～)

Mission

『生きづらさ』をサポートする

- わたしたちは、[生きづらさ]を感じている人達の想いやペースに寄り添い、自分たちも一緒になって「お互いさま」の関係の中から、みんなが「ワクワク、笑って暮らせる」社会の実現をめざしています
- 私たちが願うのは、
 - **みんなが誰かのサポーター** になること
 - それは、誰もが「自分らしく生きる」ため
 - 共に支え合い**一緒になって考える**ことから始まる

ひきこもりの若者の自立支援

すてっぴ b y すてっぴ事業

- 競争社会の激化や働くことの価値観の変化等、様々な要因でひきこもりの若者が増えています
- 私たちは「社会的ひきこもり」からの自立をサポートができないかと、当事者や当事者家族らに
- **居場所と機会** を用意しています

ひきこもりの実数（15～39歳）

2016年、内閣府より、ひきこもりの対象者は、
全国で推計**54万人**(予備軍**155万人**)

と発表されている

(注) 現実には

実際ひきこもり当事者が閉ざされた環境にあることから
実数の把握は非常に困難を極める

ひきこもりの長期化（40歳～64歳）

- 満40歳から満64歳までのひきこもりの出現率は1.45%で、推計数は**61.3万人**である
- ひきこもり状態になってから7年以上経過した方が約5割を占め、長期に及んでいる傾向が認められること
- 専業主婦や家事手伝いのひきこもりも存在すること
- ひきこもり状態になった年齢が全年齢層に大きな偏りなく分布していること
(内閣府2018年調査)

大阪狭山市に置き換えてみると

- 前述の内閣府対象者調査結果から推計

大阪狭山市におけるひきこもりの対象者は

15歳～39歳 約260人

40歳～64歳 約330人 計 **約590人**

この数字は狭山中学校全校生徒数とほぼ同数

ひきこもりの定義として内閣府は

- 趣味の用事のみときだけ外出する
- 近所のコンビニなどには出かける
- 自室からは出るが、家からは出ない
- 自室からほとんど出ない

この状態が6ヶ月以上 続いている

しかし現実には・・・

外出はできるが経済活動は困難（未就労）

社会での居場所がない（繋がりや所属）

中学生以下（15歳以下）の不登校などの方

590人より はるかに大勢の方々が
困難な状況に置かれている

包摂的な支え合い

対象者を切り離したサポートだけでは不十分

地域で生きる私たち全員の課題

みんなで取り組む ことこそ効果的

包摂的な支え合い

今、少し余力のある人が

自分にできることを 出来るときに 可能なだけ

今、しんどいと感じる人は「助けてほしい」と言える

お互いに無理のない範囲で支え合える

「おたがいさま」の関係性

『食』をテーマにした トビラファームでは

「食べることは 生きること」を基本に

「食」に関連する様々な事業を実施します

- ・タケノコ掘り
- ・スイーツWS
- ・梅干しWS
- ・畑での作物栽培
- ・味噌づくりWS
- ・地域食堂
- ・月のまつり
- ・ひきこもり
- 生きづらさを考える集い 等

これらの活動を通して

包摂的社会の必要性を発信する
社会的弱者への理解を深めてもらえる機会を作る

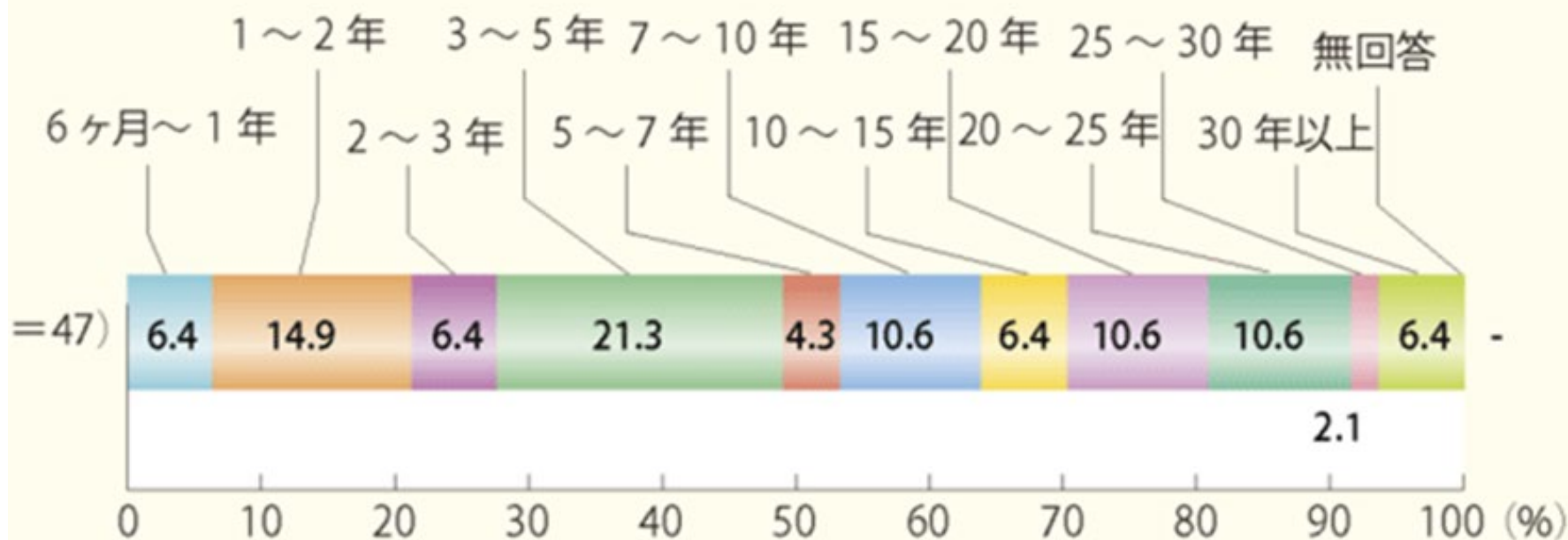
理解者が増えた社会では・・・

生きづらさを抱える若者がみんなの関わりの中で
自分の可能性に触れ、自己肯定感が育まれる

REスタート の足固めに伴走する

ひきこもりの状態になってからの期間（内閣府調査）

3～5年の者の割合が21.3%と最も高かったが、7年以上の者の割合が5割近くを占めており、平成27年度調査の結果より高かった。



ひきこもりからの回復には年数が必要である

ひとりひとりを大切にし合える安心の居場所

この中での丁寧な関り（変わらない安心感）

現在の社会が持つ課題に取り組む必要性

成果主義/スピード感/同調圧力 etc

これから

- 事業を続けることで新たな繋がりを増やす
- 多様性のある機会や居場所作りを目指す
- 事業や活動をもっと多くの市民に知ってもらう
- 活動の自立に向けた検討を重ねる
- 活動に関わる人への研修

出会った人たちと

お互いを大切にし合える繋がり方を

長く継続していける繋がり方を作る

ご清聴ありがとうございました

これからもご理解、ご協力、ご支援 よろしく申し上げます

自分が困ったら

「助けてほしい」って伝える

おたがいさま

自分にゆとりがある時は

「できることある？」って聴く

そんな社会が実現するといいですね

2023/4/16

